

薬剤搬送ロボで業務軽減



薬剤の搬送を行う自律走行型ロボット「山梨大・山梨大付属病院」

山梨大などによると、ロボットは高さ約140センチ、幅約70センチ、奥行き約70センチで、最大約30分の薬剤などを運ぶこと

山梨大と芙蓉実業

自律走行型、病院で実証実験へ

かいじネットワーク

山梨大とロボット開発などを手掛ける芙蓉実業（東京都葛飾区、山佐一郎社長）は24日、自律走行型の薬剤搬送ロボットの試作機を公開した。新型コロナウイルスの感染拡大などで業務量が増加している医療従事者の負担軽減を図る。試作機は山梨大付属病院で実証実験し、運用に問題がなければ本格的な導入を目指す。

とができる。医師がスマートフォンなどの端末を通じて指示するとロボットが薬剤などを自動的に指定の場所まで届ける。超音波やレーザーのセンサーにより、人や障害物が近づくと止まったり、よけたりする。走行速度は人が歩く程度だという。

山梨大などが中央市の同大付属病院で24日に公開した、自律走行型の薬剤搬送ロボットの試作機。新型コロナウイルス感染拡大で業務量が増加している医療従事者の負担軽減を図る。実証実験はロボットを3月の午後10時～翌午前7時に稼働させる。ロボットの安



医療現場に「助っ人」



山梨大などが中央市の同大付属病院で24日に公開した、自律走行型の薬剤搬送ロボットの試作機。新型コロナウイルス感染拡大で業務量が増加している医療従事者の負担軽減を図る。実証実験はロボットを3月の午後10時～翌午前7時に稼働させる。ロボットの安

＝記事は22面

山梨日日新聞

2022年（令和4年）1月25日 火曜日

第50760号（日刊） 掲載

お薬運搬 ロボの助っ人

山梨大は24日、自律走行型のロボットを使って医薬品を搬送する実証実験を来月から医学部付属病院（中央市）で始めると発表した。人手不足が深刻化する医療現場の負担軽減がねらい。実験は、人手や患者らの通行が少ない深夜帯に行い、利点や使い勝手などを



2月から山梨大医学部付属病院で医薬品運搬の実証実験をする自律走行型のサービスロボット。左は榎本信幸院長＝中央市

医療者負担減へ 山梨大実証実験

検証して改善につなげる。ロボットは、高さ141センチ、幅65センチ、奥行き69センチ、重さ約120キロ。最大積重量は約30キロで、最高速度は時速4・86キロ。下部の走行するモバイルロボット部分はオムロン社製で、上部のサービスロボット部分は芙蓉実業（富士吉田市）が製

作した。

医薬品を積んだロボットが、病院1階の薬剤部から救急部までの約300メートルを数力所の角を曲がりながら運ぶ実験で、2月1日から2カ月間実施する。

今後、来訪者の院内の案内などに活用することも考えているという。榎本信幸院長は「夜中、薬が必要になると、職員がその都度薬剤部まで取りに行かなくてはならない。ロボットに運んでもらえば、診療や看護にあたる時間を増やすことができる。人間でなければできないことに少しでも時間を使い、安心を届けた」と話している。

（三ツ木勝巳）

朝日新聞

2022年（令和4年）1月26日 水曜日

48711号（日刊） 掲載